

学校再建

pg1: 被災後～再建過程

2008年5月に発生した大地震から2年を過ぎた今、各地で再建されている学校が次々と完成を迎え始め、ようやく子ども達は安全で健やかな日常を取り戻し始めています。

被災した学校の多くは、新しい校舎の完成までの間、がれきの中から再利用できる椅子や机を拾いだし、夏は室内が40度近くにもなる仮設のプレハブ校舎や、損壊した危険な建物などで授業を続けてきました。復興の過程から、今日に至るまでの子ども達の様子をお伝えします。 ©日本赤十字社



倒壊した農村の小学校(甘肅省隴南市徽県)



プレハブ校舎に響く子ども達の声(甘肅省隴南市徽県)



プレハブ教室の奥に並ぶのは寄宿生用のベッド(四川省広元市元バ区)



激震地の中学のプレハブ宿舍(四川省広元市青川県)



農家の倉庫を間借りして勉強(陝西省安康市漢陰県)

学校再建

pg2 完成した施設での学校生活

日本赤十字社は被災した3省(四川省、甘肅省、陝西省)で合計30校の学校校舎や学生宿舎の再建支援を行っています。2010年度中にほとんどの施設が完成する予定です。©日本赤十字社



09年春: 日赤支援で完成した学校第1号。これまで農家の倉庫などに分散して勉強して来た子ども達も、明るい新教室に笑顔がこぼれる(陝西省漢中市城固県)



10年春: 窓のない吹きさらしの仮校舎で学んでいた子ども達にも、健やかな日常が戻ってきた(四川省遂寧市船山区)



1年半過ぎたプレハブから新教室へ。夏のプレハブは40度だったが今年は快適に過ごせそう(四川省綿陽市游仙区)